

# ヒト胆道系上皮での膵消化酵素の産生と分泌:免疫組織化学的、分子生物学的検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-07-01 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00066587">https://doi.org/10.24517/00066587</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# ヒト胆道系上皮での膵消化酵素の産生と分泌:免疫組織化学的、分子生物学的検討

Research Project

All

## Project/Area Number

05857023

## Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

## Allocation Type

Single-year Grants

## Research Field

Human pathology

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

細 正博 金沢大学, 医学部, 助手 (20219182)

## Project Period (FY)

1993

## Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

## Budget Amount \*help

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

## Keywords

胆道系上皮 / 胆汁 / 膵消化酵素 / SDS-PAGE / アミラーゼ / リパーゼ / トリプシン / in situ hybridization

## Research Abstract

- 1,本学第二外科および当教室関連病院の協力により、閉塞性黄疸症例等の経皮経肝的胆道ドレナージ(PTCD)胆汁、45例を収集し-80℃凍結保存した。
- 2,収集した胆汁をSDSポリアクリルアミドゲル電気泳動装置(ATTO,AE6440)を用いて泳動し、タンパク質を分離、それをホライズプロット装置(ATTO,AE6670P/N)を用いてニトロセルロース(NC)膜に転写、NC膜を免疫組織化学的に染色した。(Western blotting法)。その結果、膵消化酵素(膵alphaアミラーゼ、膵リパーゼおよびトリプシン)に対するモノクローナル抗体と結合するバンドを固定した。
- 3,本学附属病院中央検査部の協力により、同胆汁中の膵アミラーゼおよびリパーゼ活性を測定し、大半の症例で両酵素の活性の存在を確認した。また13例でリパーゼ活性、7例でアミラーゼ活性の異常高値を認めた。
- 4,以上、胆汁中に膵消化酵素が存在することを示した。現在、胆道上皮が実際に膵消化酵素を産生しているかどうかを確認するため、外科的手術症例の胆道のAMex固定および凍結保存を用いて、in situ hybridizationで、上記材料の胆管上皮内でのmRNAの発現の有無を検索している。また、ヒトのアミラーゼ、リパーゼ等に対応する合成オリゴヌクレオチドの作成を試み、35Pをテイリングしてin situ hybridizationを行い、胆管上皮内でのmRNAの発現の検索を行っている。

## Report (1 results)

---

1993 Annual Research Report

URL:

Published: 1993-03-31 Modified: 2018-06-07